◆「董氏針灸」

カナダで活躍する鐘政哲先生、中国医薬大学教授の張永賢先生、先年日本中医学会の学術総会で講演された董延齢先生たち三人の方々が「董氏針灸」を紹介してくださった。

1.　鐘政哲先生の談話

鐘政哲先生は、董景昌老師の直弟子の楊維傑先生の弟子で、董氏の孫弟子にあたる。現在カナダで活躍中。以下、鐘先生の談話による「董氏針灸」の概略である。

「董氏針灸」とは、山東省出身の軍人であった董景昌（1916～1975）が，1949 年 33 歳のときに軍に従って入台したのち、家伝針灸をもとに開発した独特の針法。生涯に 30 万人の患者を診、うち 10 万人はボランティアで治療した患者。軍隊で苦しむ兵士の治療によって実践的な針灸を生み出す。治療効果が高く、1971 年にカンボジアのロンノル大統領の脳卒中後遺症を治療して名声を博し、国民栄誉賞を授与された。

董景昌の直接の弟子は 73 人、「董氏針灸」を整理して体系化した代表的人物が楊維傑氏（在米）。73 年に出版された『董氏針灸正経奇穴学』は董景昌の講義や談話を楊維傑氏がまとめたもの。楊氏は多数の書籍を著し、教育、出版、研究に力を注ぎ「董氏針灸」の世界普及に大きな貢献をした。1994 年に大陸でも

簡体字版書籍が出版され、代表的な流派針灸として中国でも研究が進められている。

「董氏針灸」については、家族は継承していない。1962 年から弟子を募集して教育、現在 73 人の弟子たちが継承している。弟子たちが受け継いだので、公的な遺産となり、内容が深められ、広がりをもつことになった。

『董氏針灸正経奇穴学』には 740 穴が記載されている。董氏の「奇穴」はいわゆる経外奇穴の「奇穴」ではなく「奇妙な」「珍しい」「特別に効く」といった意味で使われている。所在位置は一般に経脈の流注に沿っており、経脈と経脈のあいだの幅のあるベルト地帯を指すことが多い。体幹部はあまり使わない。主として手と足に取穴する。

たとえば、制汚穴。これは手の親指の第 1 関節と第 2 関節の間の部分に、2 穴または 3 穴取り刺絡を施す。糖尿病の足の痛みや壊疽の治療に有効だ。このような 1 つ 1 つのツボに関して、ネット上で熱心に議論され効果を確認し合っている。（□□図版）

全身を 12 に区分する。

「一一の部位」は手指、「二二の部位」は手掌、「三三の部位」は小臀、「四四の部位」は大臀、「五五の部位」は足趾、「六六の部位」は足底、「七七の部位」は下腿、「八八の部位」は大腿、「九九の部位」は耳、「十十の部位」は頭顔面、そのほかに前胸部と後背部がある。

基本穴は 206 穴。複雑な手技は行わない。補瀉も行わない。刺入深度によって効果が変わる。

手技の方法としては次の 3 つが特徴的だ。

①「倒馬針法」。まず 1 穴（たとえば内関穴）に刺入したあと、同経の近隣部位（間使または大陵）にもう 1 穴刺入する。

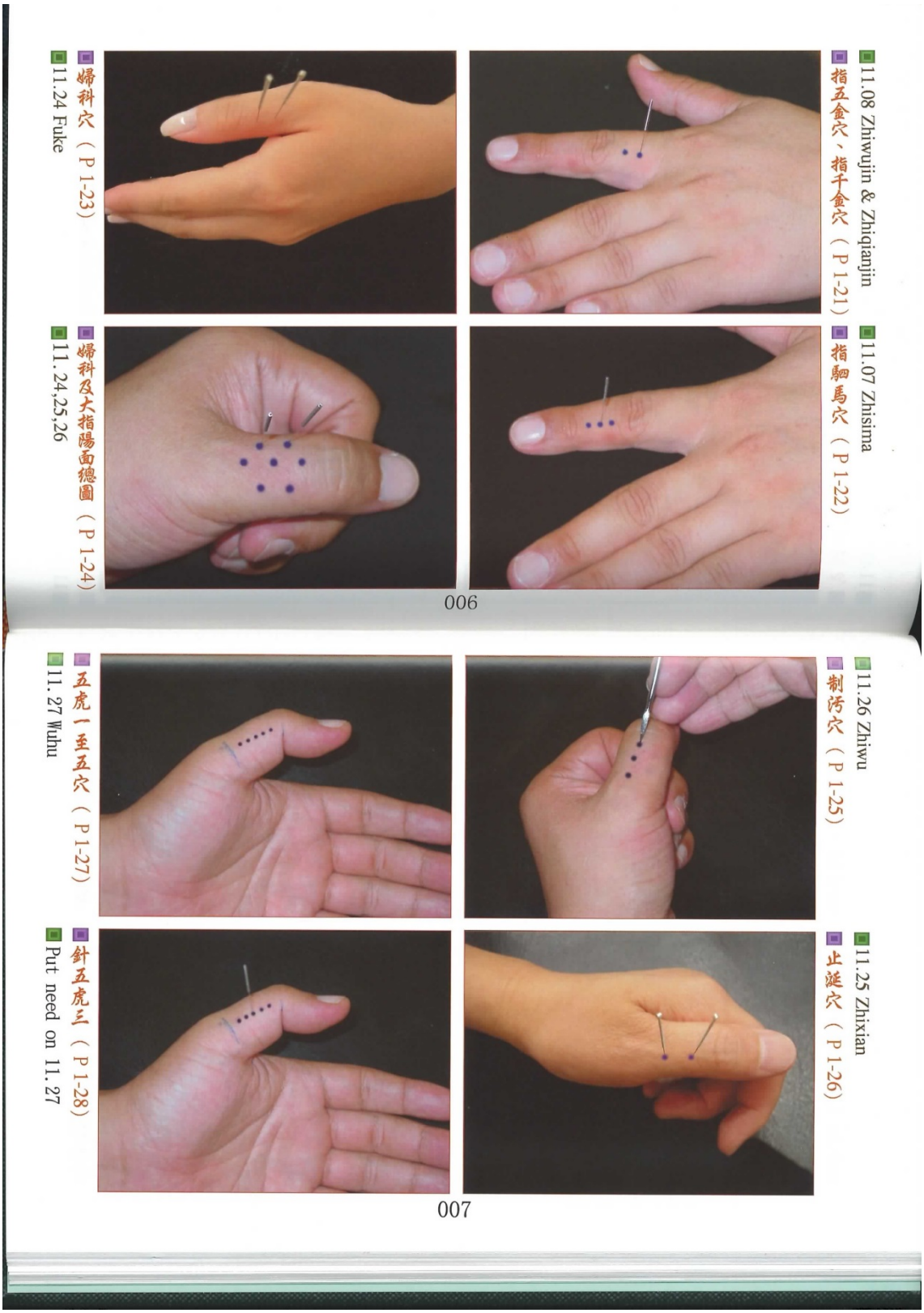
②「動気針法」。針を刺入したのち、患者に痛む場所を動かさせる方法。

③「牽引針法」。患部を挟んで健側の遠隔部に治療穴を取り、ついで患側の遠隔部にも取穴して、両者で同時に捻転して患部を挟んで牽引の形を取る。あわせて動気針法も行う。

針具は 32～34 号をよく用いる。それ以上細くしては使いにくい

董景昌先生

右：楊維傑先生



制汚穴。右列上から 3 番目の写真。

2. 張永賢教授（中国医薬大学教授・元副学長）

「董氏針灸」は台湾針灸の特色の 1 つ。台湾針灸は基本的に伝統的な十四正経を遵守する黄維三の針が主流である。「董氏針灸」はいわば対極の民間療法といえる。

1971 年 1972 年ごろにアメリカで針灸ブームが起こったが、当時、中国がまだ門戸を開いていないため、欧米から針灸を視察する場合、まず台湾、韓国、日本が選択された。そのころ、楊維傑氏が「董氏針灸」を整頓し、理論づけを行って積極的に普及させていた。治療効果が高いことで人気があった。

「董氏針灸」の特徴は、①治療効果が高いこと、②取穴が少ないこと、③用穴がすぐれていること、③奇穴を使うことが挙げられる。

一般に取穴は遠隔部を使用する。主に肘から先の前腕部、足の膝から下腿部に取穴する。

①**「倒馬針法」**という特殊な選穴方法がある。「内経」でいう傍針に相当する選穴方法だ。最初の 1 本を刺した後続けて周辺に 1 穴、また 2 穴、さらに 3 穴とツボを増やしてゆく。増やし方で傍針刺、揚針刺、斉刺などの呼称がある。1 穴で効果が足りない時に効果を強めるために 1 穴ずつ刺入箇所を増やしてゆく。作用を強めるための針法だ。穴位は小さいポイ

ントではなく区域を指す。

②**刺絡が多い。**浅く素早い刺入。

③**動気療法。**気を動かして病所へ至らせる方法。非常に素速く複数穴を連続的に一気に刺入する。

「董氏針灸」は非常に治療効果の高い針灸である。しかし、針灸を学ぶものは、まず正統な十四経針灸を学んでから臨床性の強い「董氏針灸」を学んだほうがよいだろう。私は正統派の黄維三先生について学んだ。林紹庚教授も同門である。

3. 黄碧松先生の説明

黄碧松先生は、「董氏針灸」の特徴を次のようにのべている。「多くのツボは複数のグループ穴の形をとっている。たとえば、手の木穴・脾腫・二角明・婦科などは２穴でなりたっている。指駟馬・指腎穴は３つのツボでなりたっている。小腿と大腿の部位はさらに２穴と３穴が組み合わさって１つの穴位グループを形成している。また一部の穴位は非常に特徴的で、鼻翼穴は鼻の鼻翼溝にあって、口眼喎斜を治療するときは口腔内膜に点刺する。あるツボは取穴法が変わっていて、天宗・地宗・人宗は肺経にあるが、取穴は手をひっくり返して大腸経から刺入する。火腑海は三焦経にあるが、刺針するときは拳を立てて陽明大腸経から刺入する。重子穴は背中の痛みを治療する。霊骨・大白は坐骨神経痛に効く。水通穴は咳嗽に効く。その効果が早いことは比類がない。便利であり安全である。」（図版参照）

コラム
董延齢医師の談話

私は董景昌とは山東省の出身で同郷だ。

私の父は董と同じく軍に従って入台した。金門島の軍隊で董が料理人をしていたとき、話言葉が山東省の同郷の言葉だったので声を掛けて始めて知り合った。当時の台湾は非常に貧しく、医療など皆無状況であったが、董は故郷で学んだ針灸を軍隊内の同僚たちに施して高い治療効果を示した。軍隊内で評判になり軍のトップから表彰されたこともある。そのうちに董は退役して専門に針治療に専念するようになると、たちまち評判が評判を呼んで、まもなくして私の父が出会ったときは、立派な服装を着て大変裕福そうな暮らしをしていた。それを見た父はもともと中医であったので、董から刺激を受けてさっそく中医の薬局を開業したという話がある。

もう 1 つエピソードがある。ある日、董が父親を訪ねて相談にきた。独身なので結婚相手が欲しい、どうしたらよいかという。それは簡単だ、針灸院の受付の募集を新聞に載せれば良いとアドバイスをしたら、そのとおりに応募があって、やがてその女性と結婚することになったという話だ。まあ、それほど自分は董氏と縁があったとうことだ。

(山本勝司記)

中央は董延齢先生